

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790400642		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホームいわき平窪		
所在地	福島県いわき市平中平窪字横枕10-1		
自己評価作成日	2020/6/9	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	令和2年8月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者様、ご家族様が安心・安全に穏やかに過ごせるホーム作りを継続しており、現在は新型コロナウイルスの影響で面会や交流等が厳しいですが、グループホームならではの認知症介護に特化したアットホームな環境作りや、個人の能力を活かしたホーム作りを目標としています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービスの役割を理解し、利用者が地域のなかでつながりながら暮らし続けられるよう、周囲の自然や社会資源を活用し、地域との連携や交流を積極的に図っている。管理者と職員は、日々考え話し合い、利用者一人ひとりが安全・安心にその人らしく暮らせるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい ○ 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループ理念・介護事業理念を基に事業所理念を作成し、玄関・事務所に掲示している	職員は理念をもとに、一人ひとりの利用者に笑顔で接し、その人に合ったケアにつなげている。毎月のミーティングで理念について繰り返し話し合い確認し、具体的なケアについて、意志の共有を計りながら取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	隣組に加入し、回覧板で行事などに出向き、交流できる様心掛けている	公民館の主催の認知症サポーター養成講座や百円喫茶に参加し、認知症を知ってもらい、事業所の取り組みを通して交流している。小学生が、子供じゃんがらや、ボランティアでフラダンスを踊ってくれるなど楽しい時間を過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	買い物等で、認知症でも住み慣れた地域で過ごすように地域住民に働きかける		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域のイベントや交流の場を告知して頂いたり、当事業所の特徴などを紹介し、認知して頂く	事業所の行事や研修内容・利用者の状況を報告し、意見や提案をいただいている。区長から、水害の警報を早く知ることが大切、とのアドバイスや、地域の行事の情報などを知らせてもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	イベントなどで交流を図る	水害の避難後、被災した機器や設備の再生について助言をもらっている。市外に避難した利用者の、費用負担について相談し、適切な対応をしてもらっている。感染症対策で、マスクや消毒液の支援をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度の身体拘束廃止委員会で周知し実践している	身体拘束はしないことを基本にしている。入居時に本人家族に説明している。言葉の拘束については、気づいた時はその都度、別室や個別面談時に話して理解してもらおうようにしている。身体拘束に関する基本指針を見えるところに掲示している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待・不適切ケアチェックシート」でチェックし、スタッフ間で指摘し合える環境作りをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修予定に組み込み、理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明し、納得した上で契約を結んでいる		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートを実施し、その結果で改善するよう努めている	面会時や行事を通して、意見や要望を話してもらえる機会をつくっている。七夕の笹を持ってもらったり、マスクを作ってもらうなど、運営に反映させている。日頃から利用者の要望はできる限り叶えるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	エリア内での会議で意見の交換、情報収集から、反映させている	ミーティングや個別面談で、意見や提案を聞くようにし、できるだけ運営やケアに反映させるようにしている。運動会や花火大会で季節を感じてもらいたいとの提案があり、職員の思いを活かし実現したいと考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自のレベルに合わせた研修や面談などで、その人らしさを出せる環境作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ヒヤリングからステップアップに至るようにコミュニケーションを図る		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会やその他の研修などでの交流などで、向上に努める		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ユニットリーダーや計画作成担当者は、ご本人様・ご家族様の要望を叶え、実現できる計画書を考えている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どのような事に不安を感じているか？など具体的な話をして頂けよう関係を築く事に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	連携している各機関と話し合い、支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様とスタッフも笑顔で話せる環境作りに努めている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様のお気持ちを第一に考え、その事をご家族様と共に共有できる関係を築く		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等は現時点では厳しいので、それに替わるご希望を叶える支援を行なう	感染症対策で、面会を控えてもらっている間に、利用者の生活状況に変化が見られ、家族に会うことが大切と考え、窓越しで会ってもらおうようにしている。利用者の希望で、友人・知人と電話で話し、馴染みの関係を継続できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士のコミュニケーションも大切である為、スタッフが仲介し、対応する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続して対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の気持ち、個性を大切にしたいを形にしている	その人のこれからの時間を大切に思い、そばに寄り添い思いを把握し、どう過ごしてもらうか考えている。伝えにくい方には、日々の行動や表情から汲み取り把握し、何をしてあげたらいいのかを話し合い、共有するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などの把握をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の情報を研さして、何が最善かを考え支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1回、会議などを開催し対応している	計画作成担当者を中心に、その人らしく暮らせる世に必要な支援を盛り込んだ、個別の具体的な介護計画を作成している。利用者の身体状況に合わせて、医師や看護師の助言をもらい、柔軟に見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々変化する状態を記録することで、情報の共有から今後の想定なども考えられる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフ一人の意見ではなく、多方面からの意見なども参考にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	「刺激」はどのような形であっても、私達「人」にとっては良いので、活用する		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診にを行ない、状態により受診・検査にて対応している	入居時に、本人・家族の希望で、かかりつけ医から協力医療機関に変更する方もいる。専門診療の場合は、職員が代行したり、家族と待ち合わせして、利用者の生活記録を持参し、適切な受診が出来るようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的アドバイスや指導を受けることが出来る		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換や相談などで早期退院に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	密に話し合い、納得して頂けるよう対応している	入居時に、重度化や終末期の対応について説明し、理解してもらっている。医療機関の受診が多くなってきているときは、その都度話し合い、本人・家族の気持ちの変化を理解し、対応するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル整備、対応、日頃の準備や段取りを確認している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、災害時訓練の実施で様々な面で安全対策を行なっている	消防署の協力を経て、訓練を定期的に行っている。危機感をもって訓練するようとのアドバイスをもらっている。洪水時の避難場所と経路や安全に避難できるかを確認している。職員が、年間を通して全員訓練に参加できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年間を通して研修を実施している	その人がこれまで生きてきた経緯や趣味を把握し尊重し、言葉かけや対応をするようにしている。否定しないで受け入れ、自分だったらどうなのかを考え、プライバシーを守りながら本人の気持ちを考えてさりげないケアに繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からのコミュニケーションで自己実現への支援を行なっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の時間ではなく、ご本人様の時間で対応出来る様支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の能力を活かす機会でもある為、出来るだけ自身で行って頂く		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じた食事の提供で、楽しむ事ができている	利用者の、一日の摂取量を考えたメニューを作成している。身体状況に合わせて、調理法を変え、食欲を高めるようにしている。盛り付けや配膳・味見をしてもらうなど、楽しく食事ができるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランス、栄養などの面を考えながら、定期的に好みの物を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科でのアドバイスで対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心やプライバシーの配慮なども考慮した対応を実践している	適切な個別誘導を行い、トイレで排泄できるようにしている。退院後、本人の生活のリズムに沿って自尊心に配慮し、利用者の様子を敏感に察知・トイレ誘導し、オムツからリハビリパンツになった方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	環境の見直しや、食事量・水分量の確認、下剤服用の有無など医療機関と相談しながら対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	リフレッシュや気分爽快などもあり、週2回以上の入浴を実施	利用者のこれまでの生活習慣や希望を聞いて、その人に合った入浴ができるようにしている。浴室と脱衣所の温度差をなくし、体に負担がかからないようにしている。好みの入浴剤を選んでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	医療機関や薬剤師などに相談し、お薬の処方なども対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必ず2人以上での確認で、ダブルチェック・トリプルチェックで対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の希望を伺い、ご本人様のやりたいことが1番！と考えている為、出来る限り支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	室内運動から野外運動移行の際は熱中症に注意しながら対応している	その人らしく暮らすために、外に出ることは大切なことと考えている。フローアから直接外に出た所にベンチを置き、外気浴や日光浴をしている。職員と一緒に洗濯物を干したり、園芸の水やりをする等、外に出る機会を多く持つようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを管理し、スタッフと一緒に買い物に出かけたり、希望に応じて使えるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	できるだけ自宅にいる時と同様な過ごし方を理想としている為、電話など制限することなく支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるよう、装飾品などの飾りつけを行なっている	利用者が多くの時間を過ごす共有空間が、居心地よい場所になるよう工夫している。床には物を置かないようにし、動線を確保し安全に歩行してもらっている。感染症予防に、定期的な換気や手すり等の消毒を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	笑顔で応接できるようにアットホームな環境作りや馴染みの品色で対応している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	ホーム内の安心安全の為に、トイレ入り口の張り紙や、居室の張り紙を使い支援している	使い慣れたなじみの物を持ち込んでもらい、その人らしく暮らせるようにしている。一人ひとりの身体状況に合わせて、ベッドの位置を変えたり、畳の部屋にする等している。掃除や衣替えは、職員と一緒に、清潔に整理整頓している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している			